

明日のための「対話と学び」の場

ファーム・レラ（新田由憲さん・みゆきさん）とCompath（遠又香さん&安井早紀さん）町地域おこし協力隊）が、映画『TOMORROW-パーマネントライフを探して』を題材に対話する「DIALOGUE FOR TOMORROW」を始めました。3〜7月にかけて全5回、「食・教育・エネルギー・経済・民主主義」のテーマ別に世界の事例を鑑賞し、「パーマネント（半永久的）な未来」をつくるために自らの考えを語り合う場です。『食』がテーマの第1回（3月21日）は、「安心できる食を確保するために個人でできるのは、自分で野菜を育てたり、「買ひこいで応援（＝投票）する」こと。それだけで社会は変わらないけれど、そこから意識を変えていければ」、「教育』がテーマの第2回（4月10日）では「教えるという学びの中にあるものを引き出す学びがある。学校では教わらない。内から引き出す」学びの場をつくりたい。東川ではそれができるはず」といった意見が交わされ、年代も経験も異なる参加者それぞれの刺激になった様子。勉強することによって身に付く「知識」も必要ですが、対話から



▲「自分の経験や考え」を書き出して意見交換（中央が新田由憲さん）

生まれやすさやまな「学び」も人生にはとても大切。人は「よくわからないこと」を恐れてしまいがち。多様な性を受け入れて未来に進むために、まずは「話す・聞く」ことから初めてみませんか？次回は5月開催。詳細はCompathのフェイスブックか、Eメール compath.info@gmail.com へお問い合わせを。

インスタ活用術を伝授！

3月14日・15日、文化ギャラリーで「もっとできる！Instagram活用講座」を4回行いました。Instagram（インスタグラム）とは写真を主体にしたSNSの一つ。これからインスタを始めたい方には、講演前にアカウントの開設からしっかりサポート。講師は料理通信社のPRマネージャー・浅井裕喜さんをお招きしました。インスタを「投稿ツールとしてだけでなく日常的に検索ツールとして使っている」という浅井さん。ハッシュタグ（#）を検索すれば、誰かがアップした最新情報や参考になる写真が出てくるので、「まずはインスタを見る」習慣



がついているほどです（例えば、#東川グルメ などのタグで検索してみてください）。情報発信だけでなく見るだけでも役に立つとは目からウロコ。お店の宣伝ツールとして使う場合は、その投稿に合ったハッシュタグを30個ほどつける、誰かが検索する際に引っかかりやすくなり、投稿をみてもらえる確率が上がります。また、プロアカウントにするなどの投稿がよく見られたかなどを可視化できるので分析にもお役立ち。目を引く写真を撮るのももちろんですが、こういった技術を学ぶことも活用が広がります。ぜひ。

気軽にクラリネットを楽しく

3月28日、小西健二音楽堂にて若手演奏家によるクラシックコンサート「Sunday Classic」の2回目を開催しました（企画：ドットレトミシー地域おこし協力隊）。今回の奏者は江畑菜奈さん（写真中央）と谷口隼輔さん（同右）のクラリネットデュオ。オーケストラでは外せないクラリネットですが、デュオ（二重奏）で活動しているのは珍しいの



だとか。クラリネットは低音から高音、明るい曲から落ち着いた曲まであらゆる音色を奏でられるのが特徴。お二人の演奏もさまざまな音の表情で観客を楽しませてくれました。2人はYouTubeで動画配信も行っているので「デイリークラリネット」で検索を。

今後は5月23日（日）にヴァイオリンとピアノ、6月以降もさまざまな奏者を迎えて開催予定。クラシックと聞くと静かに聞くイメージですが、午前中の「親子で楽しむクラシック」は声を出しても踊ってもOK。午後の大人向け「あなたと楽しむクラシック」は、落ち着いた雰囲気をお楽しみください。

「自閉症」知るきっかけを

自閉症とは、コミュニケーションが苦手な発達障害のひとつ。4月2日〜8日の「世界自閉症啓発デー」「発達障害啓発週間」に合わせ、NPO法人こころりんく東川が特別企画を行いました。共生サロンこころんの館内に「展示をキッカケに自閉症を知ってもらえれば」とわかりやすい内容の本や絵本が並べられ、自由に読むことができました（現在はせんとびゅあIIほんの森で貸出中）。子どもたちにも興味を持ってもらえるよう、自閉症の女の子・ジュリアが登場するセサミストリート（アメリカ制作の教育番組）も



▲興味をもって来てくれた南川穂果さん（右）と陽輝くん（左）。手作りクッキーをほおぼる姿は「クッキーモンスター」そっくり!?

上映。また、自閉症のテーマカラーである「希望と癒しの色」＝青にちなみ、手作りのクッキーモンスター（写真奥のキャラクター）や、建物屋外のブルーイルミネーションが会場を彩りました。自閉症の子を持つお母さんも来場されるなど、今回の企画を通してこころんが

「自閉症を語れる場」となる一歩を踏み出したようです。本企画ではYouTubeでより深く自閉症の世界を学べる動画を配信しましたが、今後も発達障害などについて動画を公開予定（「こころん動画発信基地」で検索を）。発達障害の当事者と語れる場づくりも検討中です。

豊作願ってー北海道米播種祭

4月14日、JAひがしかわ（樽井功組合長）が株東川農業振興公社（西2号北18）にて北海道米播種（はしゅ）祭を開催しました。東川町に北海道神宮唯一の神饌田（しんせんでん）、神事で用いる米を作る田があることから、一年の豊作と農作業の安全を願って毎年行われてい

ます。祭事ではゆめぴりか・ほしのゆめ・なつぼし・きたくりん、酒米の彗星・きたしずくの計6品種を奉納し、松岡市町長、津合俊弘農業委員長ら農業関係の代表6名が作付け米の種もみがまかれたポット育苗箱をビニールハウスに敷設しました。松岡町長は「稲は

椅子の日に、椅子の話

4月14日「良い椅子の日」制定を記念して、約1年ぶりの「東川町デザインスクール」特別編を開催しました。講師は東川町文化芸術コーディネーター・織田憲嗣氏。「椅子」を日本語読みすれば「イシ」となるので、「14」を「イ



▲たつたろつちのパーツからなる曲木の椅子。シンプルでデザインにもいろいろな理由があります。

ました。結婚、就職、退職の際など、その人の居場所になるような椅子を贈ったり贈られたりする文化が根付くと良いなと思います」と大きな夢を語りました。この講演部分は東川町公式YouTubeで観いただけます。講演後は、『椅子の日制定記念織田コレクション展 世界の名作椅子ベスト20』に並ぶ椅子たちにもつわるエピソードをトーク。時代背景や技術の進歩、デザイナーの信念など、その椅子が作られた過程を知れば、見方も全く変わってきます。会場に設置されたキャプションや開発年表を読み込んでみるのも面白いですよ。（5月5日（水）まで展示中）

「命の根」が縮まったものと言われます。日本人にとって稲はまさに命の源。これを機会に、命を守る食糧のあり方を考えたい。今年も最高の稲が収穫できるように祈っています」と期待を表し、樽井組合長は「日本人の主食である米を、収穫するまで気を抜かず丹精込めて日々を積



▲播種機でまかれる種もみを見守る松岡町長ら

み重ねていきたい。公設民営の三千櫻酒造も東川の米をPRするブランドになっていくと思う」と意気込みを語りました。今後は、春の北海道神宮神饌田御田植祭（田植え）、秋の抜穂祭（収穫）の季節へと続いてゆきます。